公社等外郭団体改革進行管理表

公　社　名	公益財団法人　高知県牧野記念財団	主管課名	自然共生課
役　割	牧野富太郎博士の偉業を顕彰し、植物研究を通じて、教育文化の向上及び産業振興に寄与するとともに、土佐寒蘭の保護及び知識の普及を図り、県民に対し、憩いの場を提供する		

改革の方向性	健全経営の確保	主な事業内容	(1)植物に関する調査及び研究事業 (2)植物に関する教育普及事業及び催事 (3)牧野富太郎博士の業績を顕彰する調査及び研究事業 (4)県立牧野植物園の管理運営（指定管理者） (5)前各号に掲げるもののほか、この法人の目的を達成するために必要な事業

令和7年度までの取組実績

1　事業運営の改善

①指定管理者としての管理運営業務の適切な遂行
- 各種イベントを開催することによる集客力の向上

②民間等の活用
- 展示活動、植物教室、体験学習等におけるボランティアの活用
- 高知大学附属小学校教員を受入、学校教育プログラムの改良等を学び、学校教育に還元

③植物研究の推進
- 企業との共同研究を実施
- 大学、県等との連携（高知大学等）
- 日本植物園協会の植物多様性保全拠点園に指定
- 「高知県植物誌」の発刊（平成20年度）
- 「高知県産植物の市町村別分布」(2014年改訂版)の発刊

④県派遣職員の状況
- H15(7名)→H16(6名)→H17(5名)→H18(4名)→H19(3名)→H20(3名)→H21(3名)→H22(2名)→H23(1名)→H24(2名)→H25(1名)→H26(1名)→H27(1名)→H28(0名)→H29(0名)→H30(0名)

（開園50周年記念事業に伴う県派遣職員
H19 3名→H20 2名（H20年度で事業終了））

2　外部資金の導入
- 企業からの奨学寄付金
- 文部科学省科学研究費
- JICA資金　等

3　収支・財務の健全化
- 県派遣職員の削減
- 部門ごとに可能な業務を外部委託に切り替えることによる経費削減

4　公益法人への移行
平成24年4月1日移行完了

経営課題等

1　ボランティア、NPO、民間企業、大学等との協働

2　研究成果の外部への発信並びに人材育成

3　植栽植物の充実と展示方法の検討

4　資料劣化の防止

5　県内外からの入園者増加対策

6　経営基盤強化のための外部資金獲得

※参考
入園者数の推移　（単位:人）

年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
入園者数	146,354	135,089	155,535	174,074	115,908	128,623	214,304	466,200	291,157	274,011

外部資金の導入状況　（単位:千円）

年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
国	303	902	1,128	855	2,884	6,439	3,444	1,978	390	625
民間等	19,763	7,917	4,792	21,795	8,552	5,975	18,653	14,527	10,317	8,487

【令和8年度以降の取組方針】

1　高知県、国内外の植物探査を行い、植物分類学、有用植物学及び関連分野の研究活動を推進するとともに、植物園への植物遺伝子資源の導入と保全を図る。

2　研究成果を外部に発信するとともに、植物学の普及教育の向上に向けた教室並びに高知大学の講座を担当し、植物に関する教育と次世代を担う人材を育成する。

3　鑑賞園としての南園の質的向上とコレクションの充実を図るとともに、稀少性や観賞価値の高い植物の展示と充実を図る。

4　牧野植物園磨き上げ整備基本構想（平成29年12月）に基づき、魅力的な園地整備と植物展示を行うとともに、竹林寺等と連携して入園者の確保に努め、高知県の観光振興に貢献する。

5　外部資金を導入し、研究等のための財政基盤を確立していく。